

令和元年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立津幡高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
1 基本的な生活習慣の確立（挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底）	① 挨拶運動に取り組み、礼儀正しく、元気で活発な生徒を育成する。	生徒がすすんで挨拶していると思う保護者が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	A 教育活動に関するアンケート (保護者) 96%	「A」評価となったのは、クラス対抗の「あいさつ運動コンテスト」や生徒会役員による「あいさつ運動ウィーク」などを切れ間なく実施した成果であると思われる。この結果に満足せず、今後も挨拶への意識向上を図る取り組みを学校全体で実施していきたい。
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る。	積極的に服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めた生徒が A 95%以上である。 B 85%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。	A 教育活動に関するアンケート (生徒) 96%	服装容疑・マナーについては、生徒指導をはじめ、学年や部活動などが連携して指導にあたった結果、生徒の規範意識が向上し「A」評価となった。今後も機会をとらえて、服装容儀・マナーの大切さを伝えるとともに、ルールを守る態度を育成したい。
	③ 規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻する生徒を減少させる。	遅刻総数のが過去5年間の平均と比べて減少率が A 15%以上である。 B 10%以上である。 C 5%以上である。 D 5%未満である。	D 時点で総数は過去5年間の平均786回より33回の増加	遅刻の総数はここ5年間減少傾向であったが、本年度過去5年平均と比較しても12月時点で33回の増加となった。これは、長欠傾向の生徒の増加、病気等の身体的理由や家庭に不安定要素を持った生徒の増加が理由である。不登校傾向や持病、家庭の問題を抱え遅刻・欠席しながら続けている生徒への対処が課題である。
	④ 清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。	清掃担当職員による清掃点検で、各清掃区域の“清掃達成率”の平均値が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	B 点検における清掃達成率の評価（担当職員） 97.6%	平均清掃達成率が7月時点で97.3%、12月時点で97.6%であったため「B」評価となった。今年度から実施者を教職員に変更したことにより、生徒と職員相互の環境美化に対する意識の向上につながっていると考える。清掃の徹底を継続し、校舎内外の環境美化の向上に努める。
	⑤ 生徒の良好な人間関係づくりを支援し、不安なく充実した学校生活を送れるようにする。	学校生活に概ね満足している生徒が A 90%である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	B 教育活動に関するアンケート (生徒) 83%	スクールカウンセラーや相談担当教員が根気よく面談を行い、不安を解消できるよう支援を続けて来た。今後も、生徒への声かけをさらに行い、保護者との連携を図り、生徒への支援を充実させていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 退学者数が、ここ5年間で約1/5に減少してきたのは、大変評価できる。 挨拶運動の取り組みは良いが、効果については不十分な面を感じる。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 効果があつたSCやSSWを活用して、人間関係等で悩みを持つ生徒を支援する取り組みを、次年度さらに充実させていきたい。 挨拶の励行については、「あいさつ運動コンテスト」等の学校独自の取り組みを取り入れ、今以上に啓発していきたい。 			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
2 授業の工夫・改善と生徒の進路の実現。（わかる授業の実践、公開授業への参加、体力の増進、生徒の進路意識の向上）	① 教材・教具や指導方法を工夫して生徒の興味・関心を引き出し、わかりやすい授業を行うよう授業改善に努める。	わかりやすく興味・関心を引き出す工夫が感じられると答える生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	A 生徒による授業評価では95%	“授業を受けて「わかった」と感じる”の質問で“よくあてはまる”と答えた生徒が前期65.8%から後期71.6%へ、“先生の説明はわかりやすい”の質問で“よくあてはまる”と答えた生徒が前期68.4%から後期74.4%へとそれぞれ増加した。先生方の授業改善が良い結果となっている。授業の内容の調整を行うことも各教科で検討していく必要がある。
	② 教員間で授業見学を行い、授業力向上を図る。	各学期に1回以上授業見学を行った教員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	A 教育活動に関するアンケート（教職員）90%	前期の93%から後期90%となったが、高いレベルを維持している。達成度判断基準が“各学期に1回以上”と少し低い、どの教員も時間数が多い中、授業力向上によく努めている。授業の充実が進学・就職実績や本校の志願者増にもつながると考える。
	③ 生徒の体力向上に努め、たくましい人間づくりに取り組む。	前年度の自己記録を超えた生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C スポーツテストの結果では63%	昨年度と比較し、D評価からC評価となった。体育の授業や部活動での体力向上の成果と考える。しかし、依然としてスポ科と総合学科の差や女子の体力低下があり、総合学科の女子生徒への体力アップが課題となる。
	④ 一人一人の生徒に対してしっかりと進路指導を行い、確実な進路希望の実現を図る。	進路内定・決定率が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	B 就職内定 98.3% 進学内定 93.2% 全体 95.8%	学校紹介就職に関しては、企業の理解・支援をいただき希望者全員が内定を得ている。（公務員（自衛官）希望者は、受験に向けて準備中）。次年度以降徐々に景気の減少傾向が見受けられ、例年以上に早めの対策が必要となる。 進学に関しては国立大学を含む四年制大学に例年並みの合格者を輩出できた。（看護系専門学校を含む一般入試受験者は結果待ち）。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・実社会や生徒の進路と結びつく授業づくり」をテーマにした授業研究や授業改善は、これからも進めてもらいたい。答えが一つでない問題を複数で議論し、解決を考える授業にもっとチャレンジしてほしい。 ・生徒それぞれの進路に合わせた学習ができると、社会に出たときに役立つので、学習意欲も上がるであろう。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ健康科学科と総合学科のそれぞれの特徴を生かしながら授業改善を図っていく。特に総合学科は、系列の名称変更もあり、生徒の進路実現をしっかりと意識した授業を行っていききたい。 ・次年度より、学びの基礎診断を本格的に導入し、個々の生徒の効率的な学習スタイルや支援の在り方を見極める事と、学びの伸びの可視化を進めることで学習意欲を刺激していく。 		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
3 部活動の計画的な実施による効率的・効果的な生徒の技術向上と生徒会活動の活性化（全国大会での上位入賞、ボランティア活動の推進、情報発信）	① 県内トップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場できる各種トレーニングを行う。	全国大会に出場した運動部が A 8部以上である。 B 6部である。 C 5部である。 D 5部未満である。	B 全国高校総体（男女柔道、なぎなた、ウエイトリフティング、ボート、射撃部）、ウインターカップ（女子バスケット）計7部	スポーツ健康科学科だけでなく、総合学科の生徒の活躍もここ数年続き、7部が全国大会に出場することができた。男子柔道、女子バスケットボール、ウエイトリフティング、ボート競技で上位入賞の活躍があった。 全国上位入賞の意識も生徒の中で高まり、運動部のさらなる競技力向上に取り組んでいきたい。
	② 部活動を計画的に実施し、科学的な理論に基づき効率的・効果的に生徒の技術向上を図る。	部活動が計画的で充実していると思う生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 60%未満である。	B 教育活動に関するアンケート (生徒) 82%	各部において、年間計画に沿って、月ごとの計画表を作成し、休養日等を配慮し、練習とのバランスを考えながら、効率的・効果的な競技力向上に取り組んだ。 今後、自己管理の徹底や怪我の防止等への取り組みを啓発していきたい。
	③ 生徒会執行部の企画力・実行力を育み、活動を充実させるとともに、各種の行事を成功させ、学校生活の充実を図る。	生徒会活動が活発に行われていると思う生徒が A 75%以上である。 B 65%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	A 教育活動に関するアンケート (生徒) 78%	一昨年度57%、昨年度61%、本年度78%と年々達成度が上がってきている。「あいさつ運動ウィーク」の実施や各種ボランティア活動への参加の呼びかけ、津高祭や体育祭の成功などが集計結果に反映されたものと考えられる。 今後も生徒の学校生活の充実に向けて、生徒会の取り組みを充実させていきたい。
	④ 様々なボランティア活動に参加する生徒を増やし、社会経験を豊かにし、他者と協働する意識を高める。	様々なボランティア活動に参加したと答える生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	A 教育活動に関するアンケート (生徒) 78%	中間報告では割合81%、最終報告78%と3%の減少が見られた。前期に比べ学校行事等の関係でボランティアへの参加の機会が減少してしまったことが要因として考えられる。 地域の清掃活動、除雪活動等を通して後期における今後のボランティア活動の取り組みを充実させていきたい。
	⑤ 学校通信（校内、地域）の発行やHP・学校メール配信により部活動や生徒会活動の様子などをきめ細かく発信する。	学校のHPや学校メールの発信に満足している保護者の割合が A 85%以上である。 B 75%以上である。 C 65%以上である。 D 65%未満である。	A 教育活動に関するアンケート (保護者) 89%	アンケートに寄せられた意見文では、HPがよく更新されている、様子が分かるという意見がある一方で、現場が分からない、状況が見えないという意見も出ている。より多くの保護者に学校を理解していただける情報発信を工夫していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・運動部は、公立高校としてよく頑張っており成果を出している。その成果に比べ施設が十分でない。施設を充実すべきではないか。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・修繕の必要な箇所については、鋭意対応していきたい。また関係各方面へ施設面での改修を粘り強く要請していく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
4 教職員の時間外勤務の削減による教育活動の充実。（効率的な業務の推進）	① 教職員のワークライフバランスの実現に向けて、校務の効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る。	月80時間以上の時間外勤務のある職員の削減率が A 50%以上である。 B 40%以上である。 C 30%以上である。 D 30%未満である。	D 昨年度の時間外勤務記録との比較による 時間外80時間を超える延べ人数で11.7%の減少（-7名） *R1延べ53人-H30延べ60人=-7人	中間評価時の分析にもあったように、近年の働き方改革の効果で、業務の効率化の意識が浸透し、さらなる大きな時間的削減は難しい現状にあると考える。今後は部活動指導等に関わる時間の削減や効率化と大会成果との両立をどのように考えるかが課題である。（達成基準の再検討も必要）
		（全教員）タイムマネジメントや業務の効率的な推進を意識した働き方をしていると答えた教職員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	A 教育活動に関するアンケート （教職員）90%	多くの職員が仕事の効率化を意識していることが数値からうかがえる。 教職が魅力ある職業として、次世代の若者に認知してもらうように、現職の者がさらに努力することも必要である。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動顧問の負担が大きくなるよう配慮が必要である。 ・部活動における超過勤務は、「本人が好きでやっているからしょうがない」では済まない問題である。超過勤務させない工夫や枠組み、健康管理をもっと考慮すべき。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動計画における休養日や活動時間が適切であるかしっかり確認する。また負担が大きい教員には、カウンセリング等の受診を勧めていく。 		

